

ちゅんづん広報

9月号

セーフティーマネージャー委員会



※職員との転倒予防の話し合い

医療機関における安全対策は、医療機関に従事する一人ひとりが医療安全の重要性を認識し必要な知識と技術を身につけて、確実に実施していくことが基本です。しかし、個人の努力だけでは十分ではなく、そこに不可欠なのが病院組織としての取り組みです。医療は、多職種のメンバーで構成される医療チームによって提供されています。そのため、多職種のメンバーが一緒にあって、より安全な医療システムを創り上げて



※転倒事故予防のためチームで行う環境設定

守っていく事が必要です。当院でも、セーフティーマネージャー委員会のもと、日常の業務の中で「ヒヤッ」「ハッ」としたインシデント事例について、その原因に何が関与していたか？情報？練習？手順？環境？等々、多岐にわたり原因追求し対策を講じて、それを実行、結果を検証するという作業を実施しています。起こり得る事故を最小限に抑え、事故を「ゼロ」を目標に努力していきたいと考え

ています。さらに、医療安全で重要なのは、患者・ご家族、地域の方々や医療従事者との協働です。医療事故防止においては、患者参加の必要性が叫ばれつつあります。厚生労働省医療政策局の医療安全対策会議に提案された「安全な医療を提供するための10の要点」の中でも「安全高める患者の参加、対話が深める互いの理解」と謳われています。「安全な医療を目指す、医療チームのメンバー」として、患者・ご家族の方々から、引き続き厳しくも温かいご支援を頂きたいと思えます。

回復期リハビリ病棟における介護職の役割が、2B介護主任 城間 弥生
回復期リハビリ病棟は、寝たきり防止と在宅復帰を目的に多職種で集中的にリハビリを行う病棟です。患者様のなかには、麻痺などで日常生活動作に重度の介助を要する方もいらっしゃいます。重度の介助を要している患者さまに、何か一つでも患者様自身でできることをみつけ、チームで協力しながら支援を行っていま

海の危険生物を知ろう！



ハブクラゲ

まだまだ暑い日が続く沖縄。ビーチパーティー等まだまだ海に行くこともあると思います。例年に比べて海水温も高く9月に入ってもハブクラゲに刺された報

告が上がっています。刺されないに越したことはないですが刺されてしまった場合も被害を最小限にする方法をとらなければなりません。刺されたら、砂などでかいたりしてはいけません。酔いを刺された箇所にかけてまわり付いたクラゲの触手長い足の部分をそっと取り除いてください。酔いはハブクラゲの毒針を発射させないようにする効果があります。海水でもよいです。真水は逆に浸透圧の影響で針が中に入ってしまうので避けてください。ハブクラゲの毒は猛毒です。アナフィラキシーショックを起こ

す。限られた訓練時間に関わるセラピストとは異なり、介護職は看護師と同様に24時間患者さんの日常生活に関わっています。そして、日常生活全てをリハビリとして捉え、患者様の動作改善には叱咤激励をしながら取り組んでいます。患者様は介護職を身近な存在として、夜間の動作介助時などに本音をもらすことがあります。そのような時、寄り添う介護を提供

しているが故の信頼関係からでた患者さんの言葉として受けとめ嬉しく思うことが多々あります。そして介護職の冥利につきる「瞬で介助の患者さんが一部介助、見守りへとステップアップし、そのことにより患者様に笑顔がみられた時は介護職をやっている良かったと思います。今後もその一瞬に出逢えるようにより良い介護を提供していきたいと思えます。



す可能性があるため、お子様などの場合には特に注意が必要です。そんな危険生物ハブクラゲに刺されないためにまず一番大切なのが、肌を露出しないことです。ハブクラゲの毒針のある触手はふわふわの糸状で、Tシャツやラッシュユガードで十分にさえぎることができません。腕や足などにまわり付いた場合、触手から毒針がでて被害が大きくなりますので、日焼け対策も兼ねて長袖、長ズボンを着用するようにしましょう。万が一刺された場合は、上記の応急処置も大事ですが、急いで病院へ行くか、救急車を呼んでください。